

創業70周年、組織強化で持続的進化図る

M&Aなど成長へ積極投資

福島宏治

FCホールディングス社長

—6カ年の第3次長期プランが最終年度を迎えています。

福島 18年6月期は3期ぶりの減収だったものの、情報通信システムの積極活用や原価管理の徹底で、営業利益以下の段階利益は3期連続で過去最高を更新しました。今上半期は旺盛

な東日本帯の需要もあつて、前年同期を上回る受注状況です。成長への積極投資として、新領域開拓のM&Aで7億円、研究開発と生産性向上で各2億5000万円の計12億円を予算設定しています。

地震や豪雨災害などの復旧・復興関連業務は、グループ全体



でさらに強化する方針です。包括連携協定を締結している茨城県守谷市では、ホップで作ったグリーンカーテンからオリジナルビールを生産し、売り上げの一部をグリーンインフラ推進に活用する取り組みが本格化してきました。

7月に技術研究の子会社(株)SVI研究所を設立、8月には動物等の自然環境調査や環境アセスメント事業の(株)エコプラン研究所をグループに迎えるなど、新たな展開を広げています。SVI研究所では、当グループ中

核会社の(株)福山コンサルタントとともに、スマートフォン向け位置情報データサービスの(株)ログウォッチャーと業務連携し、ビッグデータを活用した新たな都市・地域マネジメントの開発を進めています。そのほか4件の事業化案件が進行中です。

—専門的な知識と技術力が求

められますから、人材採用と育成は欠かせないですね。

福島 多分野の専門家の中途採用や外部協力者の活用なども考えています。優秀な人材の確保と流出阻止のため、資格取得支援や教育プログラムの充実に努めます。また、従業員に対し

て自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託(J・ESOP)」を導入しました。従業員の資本市場が評価する企業価値への関心が高まり、これまで以上に意欲的に業務に励んでくれることを期待しています。

—働き方改革への取り組みを本格的に進めているとか。

福島 はい。動きをさらに加速し、業界イコール長時間労働というイメージを一新したいと思っています。一定期間転勤を実施しない地域限定職制度を次年度から導入予定です。そのほか、サテライトオフィスの試行

や休暇の取得目標増など、一人時間当たりの生産性向上につなげたいですね。引き続きAIを用いた労働時間の短縮にも力を入れていきます。

ハード面では、福山コンサルタント中四国支社の6階建て新社屋を広島市東区に建設中で、9月の完成予定です。グループ会社の(株)環境防災は、分散する試験室の統合と新築、測定・分析機器の導入など、環境整備を進めています。

—今年には創業70周年を迎えます。

福島 7月からの第4次計画は、初のグループ全体の統一プランになります。年内には傘下7社体制に拡大する見通しです。25年度で売上高100億円の達成を目指し、外部連携を深めていきます。東証ジャスダックから東証本則市場への上場も視野に、組織強化で持続的進化を図る考えです。個人的にも還暦の節目となるので、自己、時間、価値、市場、組織のマネジメントを再整理する一年にしたいと思っています。